

経営比較分析表（令和4年度決算）

群馬県邑楽館林医療企業団 公立館林厚生病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透訓ガ	救臨感災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	31,885	-	第2種該当	7：1

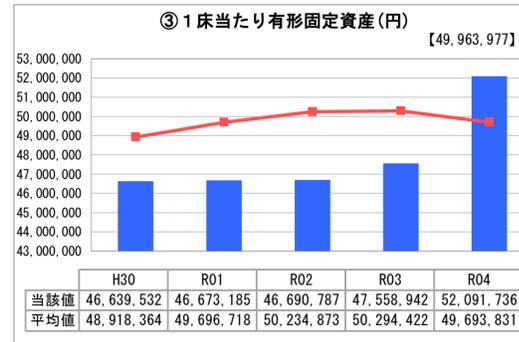
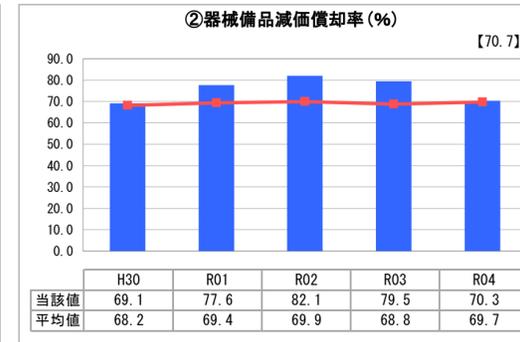
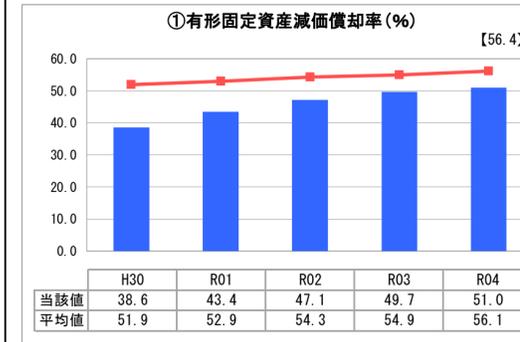
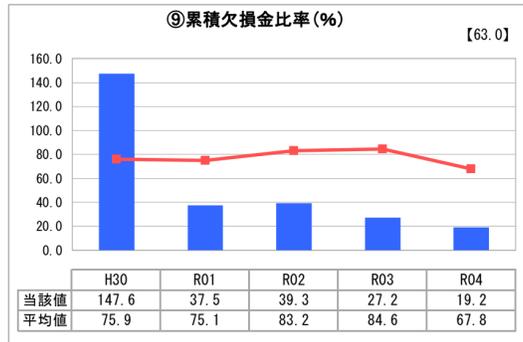
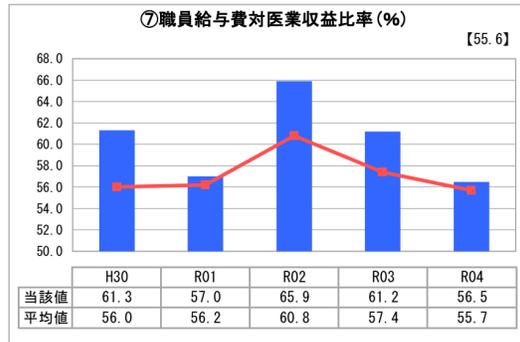
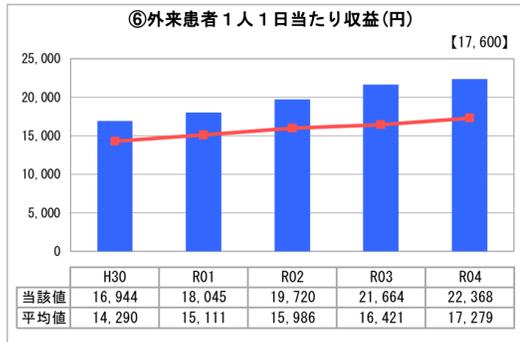
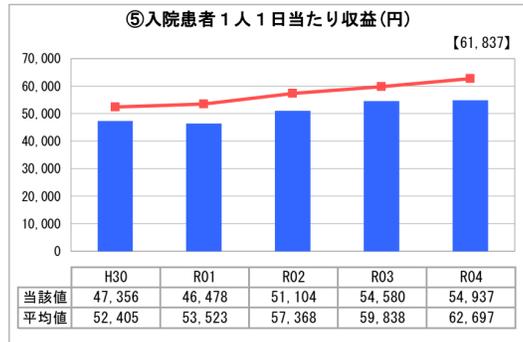
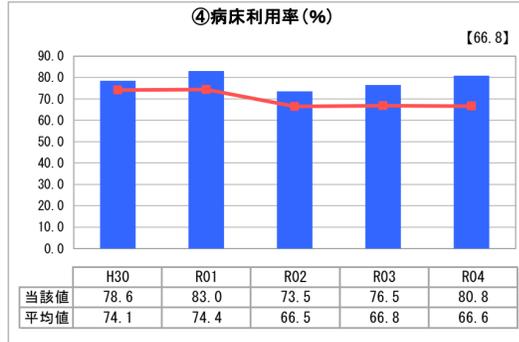
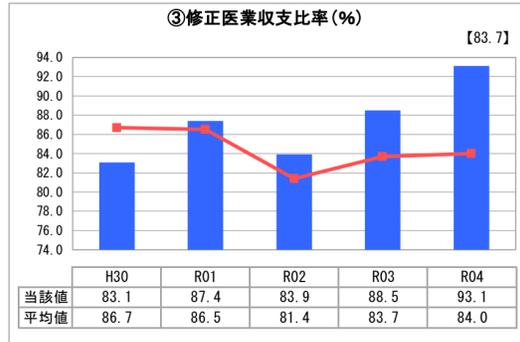
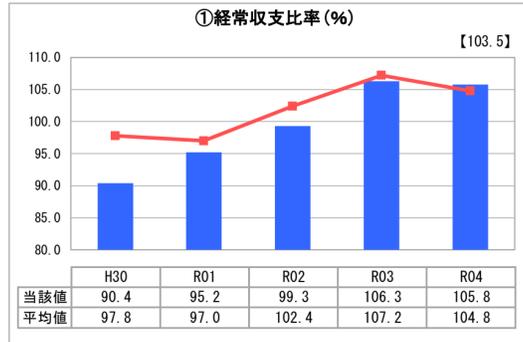
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 ガ…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
323	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	329
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
308	-	308

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は邑楽館林地域の中核病院として、救急や急性期疾患の治療をはじめ、回復期リハビリテーションや地域包括ケアを行う病棟を備えており、急性期から在宅を見据えたりリハビリまで提供可能な体制を有している。さらに災害拠点病院として災害派遣医療チームの組織や、第二種感染症指定医療機関として感染症病棟を整備するなど、緊急事態に対して地域の安心・安全を確保する役割を担っている。また、地域の中核病院として、地域の患者に対し適正な医療を継続して提供するため、病医院等との連携を推進・強化する役割も有している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は前年度同様100%を超えており、主な原因は新型コロナウイルス感染症に係る補助金である。しかし当年度は前年度に比べて②医業収支比率も大幅に改善し、④病床利用率も微増ではあるが増加傾向にある。効率性の面においても、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益は増加しており、コロナ禍にありながら経営状況の改善が一定程度図れた。⑦職員給与対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率においても、医業収益の増加により改善傾向にある。⑨累積欠損金比率においても、8.0ポイント改善し、全国平均を下回っている。

2. 老朽化の状況について

③の1床当たり有形固定資産は、企業団に移行した影響や医療に関する機器の購入に伴い増加となったが、①有形固定資産減価償却率は継続して全国平均以下であり、②器械備品減価償却率においては、全国平均にまで減少した。今後においては、既存の資産にかかる修繕費が老朽化に伴い増加することや、地域のニーズを考慮した医療機器導入における優先順位を含めた計画の策定などを踏まえ、効率的な設備投資を行っていきたい。

全体総括

今年度においては、新型コロナウイルス感染症に加え、エネルギー関連経費の高騰などもあり、病院運営に大きな影響を及ぼした。このように医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況であるが、新興感染症等や大規模災害などの緊急事態が発生した際にも機動的・弾力的に対応できるよう、効率的なベッドコントロールによる収益増加や経費の削減などに加え、継続して常勤医師の増員、地域の医療機関との連携を推進し、地域の住民に対し、安定した経営にて医療を提供できる体制を構築する必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。